

## ◁ 我々の脳・意識・ 知性・理性など ▷

### 1. 我々が受けとる3つの栄養

我々の肉体は、長さや広さや厚さというもので表わされる三次元に存在しています。そして、食物や酸素、印象を自分の中にとり入れて栄養にしています。皆さんは印象が栄養？と思われるかもしれませんが、

まず食物、これは水や三度三度の食事などを、胃や腸を使って消化、変換しビタミンやミネラルに変え、体内に吸収します。そして更に体内でいろいろなものに交換されます。

また息をするたびに酸素を吸って、肺を通して体内へ、血液内へ運ばれていきます。そして食物同様、体内でいろいろなものと結合し変換していきます。脳にも酸素が運ばれ活動を促します。

これら食物や酸素の吸収、変換ということは、前号で説明した本能センターが受け持っています。本能センターが「オクターブの法則」によって、このような働きをすることができます。「オクターブの法則」というのは、宇宙、自然界の創造の法則の一つです。音楽で言うオクターブ・ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド一の7音階、7つの段階、7というリズムを持つ7の法則のことです。この法則の結果、1週間は7日、惑星から我々が受ける影響も7の周期、リズムを持っています。これらについては音や、惑星のテーマの時にもまた説明します。

さて、印象ということなのですが、この印象は「第一印象は…」などと言う印象と同じです。これはオーラとして見ることもできますが、普通は目に見えないエネルギーです。我々は五感（見・聞・味・嗅・触）を通し、一瞬一瞬何らかの印象、感じを感じています。24時間、休みなく感じています。そして印象は食物や酸素を消化、変換させる消化器、呼吸器に相当するものではありませんから、我々自身が受け取った印象を消化、変換していかなければなりません。この印象は1つのエネルギー成分ですから、ネガティブ（陰性）なものも、ポジティブ（陽性）なものもあるわけです。この印象の受け取り方、変換の仕方は我々自身の心理的な動き、心の持ち方や在り方によって左右されます。ですから自分が受け取

る物理的、心理的印象は防ぐなり、選択するなり消化してより良く変換していかなければならないということになります。

この印象はすべて、我々の潜在意識に記憶されます。我々の潜在意識はオクターブの法則によって49という、とても奥深い段階まであります。ですから胎児の時や前世の記憶さえも、その意識の中に持っています。ただ、我々がそれを思い出さない、引き出せないでいるだけです。この印象によって得た記録は脳の1つの機能であるインテレクト（頭脳）の栄養になります。つまり情報収集室に、ひとつひとつの印象から得たひとつひとつの情報をためていくようなものです。

## 2. 我々の脳とその機能

### 脳

脳の仕事、動きは我々の生物学的な、心理学的なものすべてを記録することです。それは、限りある肉体を持つ生きものとしての人間のあらゆること、そして同時に心、精神を持つ存在としてのあらゆることについてです。そして脳は、消化器や呼吸器、排泄器、生殖器と同様に、我々の肉体の1つの臓器です。ですから、肉体の死によってこれらの臓器すべては、全く動くことも何もできなくなります。生きている間はすべての臓器、すべての細胞が働いています。しかし、その働き方は人によって異なり、脳の働き方についても個人個人、大変違いがあるように見られます。我々の肉体は60兆もの細胞から成っています。体の1つ1つの細胞は、7年毎に新しい細胞と変わり再生しています。しかし、脳細胞は一度こわれると、再生されることはないと言われています。ですから障害児、者や頭のけが、病気によって脳細胞を犯された人に対しては、犯された脳細胞とその部分に当たる機能の回復は望めなくとも残った細胞、残った機能を開発することによって障害をできるだけ減らし軽くしていくのだというような考え方をします。でも脳細胞は再生不可能だということは本当でしょうか。それを考えてみたいと思います。

我々の脳細胞は150~180億あります。そして普通の人はそのうちの3%くらいしか動かしていません。多い人でも5~6%、天才と呼ばれている程の人でも13%くらいです。残りの87%はどうしたのでしょうか。働いていません。大差があるように思える我々の脳の動き具合もあまり差はなく、実はほとんど働いていないのです。動かさないもの、使わないものは、だんだん弱まり退化します。わかりやすい例が筋肉や関節です。使わなければ筋肉はやせ落ち、関節は動かなくなります。もし我々の脳が100%活動したら、どんなことになるのでしょうか。天才さえも8割は眠りこけた脳なのです。

ノースでは、眠りこけた脳を自分で開発していくことを教えます。開発していくためには、まず脳が眠りこけている原因を知らなければなりません。そして、脳の退化に歯止めをかけ、その上でどうしたら脳の眠りを覚まし、活動を促して

いけるかを知ることです。そうすれば、あとは自分の実践があるのみです。

### ① 脳の退化、積廃の原因

#### ① 肉体的な原因

##### ・使いすぎ

ほかとのバランスを欠く。それによって性センターよりエネルギーを奪ってしまう。

##### ・使わなすぎ

##### ・理解を伴わない読書

混乱したままの情報を無秩序にコンピューターの中に入れるようなもの。

##### ・性エネルギーの消耗

これによって冷たい空気が脳に送られ、細胞内に気泡ができてしまう。ナチスの実験でも同様のことがあった。

##### ・性行為過剰

内分泌腺のバランスをくずす。脳下垂体と性腺は直接関連し合っている。

##### ・アルコール飲料

アルコール成分は体内に入るとすぐ、血液の中に入り、直接、脳へ運ばれ悪影響がある。

##### ・積廃的音楽、低い波動の音楽

これは音楽のテーマの時に詳しく行います。ロックやジャズ、マンボ、チャチャチャ等の波動の低い音楽やただ感覚的な音楽。また人間の耳に聞こえない低い周波数の音は、直接脳細胞を犯す。しかも音は聞きたくないと思っても、目のように閉じて拒否することはできず害を受けてしまう。

#### ② 心理的な原因

##### ・怒り

脳の中を流れる電気的な流れが頭頂部でショートを起こす。我々のエネルギーを非常に失ってしまう。怒りや憎悪は超視覚の開発を妨げる。

##### ・心配

頭が熱くなる。白髪の原因にもなる。

\*白髪の原因——魂が故郷へ帰る準備をしている。

肉体的老化現象

肉欲（耳の上など特に）

恐怖心（一夜にしてまっ白になったりする）

賢者であることを表わす（モーゼなど）

##### ・うそ

脳の中に間違った回路ができ、ショートを起こす。

##### ・たいくつ

脳の中に歪曲した歪みが  
できてしまう。

・有害な記憶

ボルノや暴力など

(2) 脳の活動、再生を促す要因

・性エネルギーの昇華

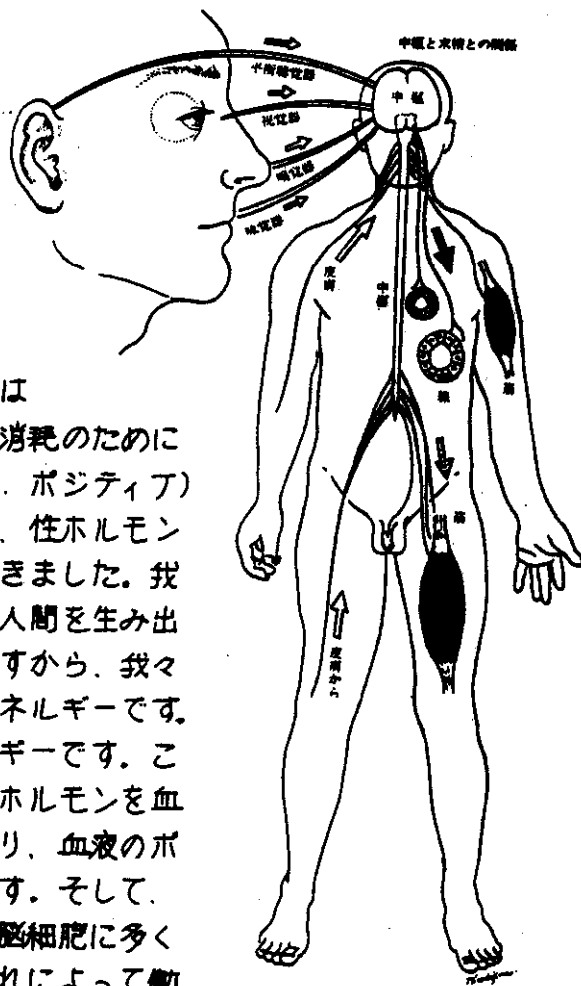
これは性のテーマで詳しく行いますが、簡単に説明します。前号で、我々の性エネルギー、性ホルモンは単なる生殖や動物的行為、消耗のために使うのではなく、十(プラス、ポジティブ)に方向づけることによって、性ホルモンを再吸収していくのだと書きました。我々の性エネルギーは一人の人間を生み出す程のエネルギーです。ですから、我々の中で最もパワーのあるエネルギーです。宇宙の中でも最大のエネルギーです。この性エネルギーとしての性ホルモンを血液内に再吸収することにより、血液のポンプ力を増すことができます。そして、脳の血液循環が良くなり、脳細胞に多くの酸素が行き渡ります。それによって働きの鈍くなっていた所、今まで使っていなかった脳細胞までも使うことができるようになります。ですから、呼吸のしかたによって、酸素の取り入れ方を多くするのも有効です。

・高等な芸術、音楽の波動(バイブレーション)

ロック等の音楽、洗練度の低い音楽や音は我々の下半身に共鳴しますが、高等な音楽は我々の高い部分、脳や心、ハートに伝わります。いわゆるクラシック、特に21世紀の音楽などといわれているベートーベン、バッハ、モーツァルト、ワーグナー、ヘンデル、ハイドン、メンデルスゾーン、ヴェルディなどの人種や国境を超えて心に伝わってくる音楽は直接、意識や魂にまで至ります。それで、脳の活動していない部分に共鳴して揺り動かします。

・マントラ

マントラとは真言とも言われますが、叡智によって組み合わされた言葉、音、音節やリズムからできています。これらの音を、その音の波動(バ

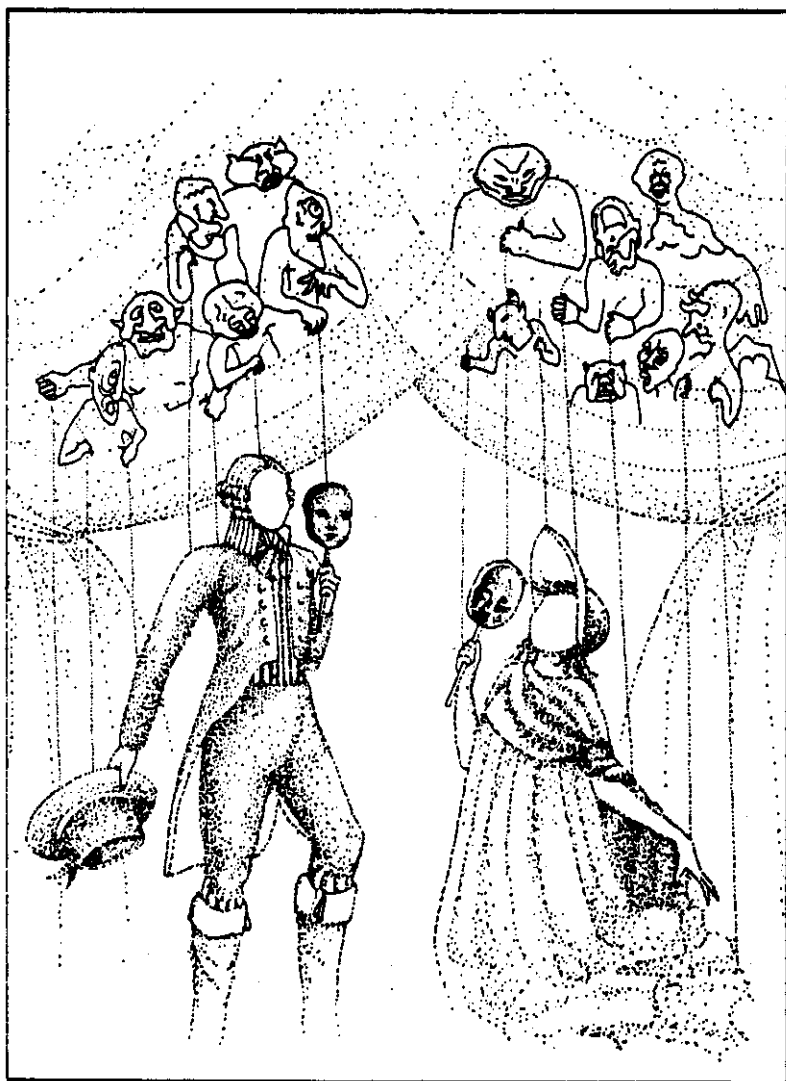


イブレーション)、ひびきを伴って発音することにより我々の体のいろいろな部分に共鳴、振動させます。それによって働いていない所を揺り動かす。チャクラを開発させ超常機能も働くようになります。知性や記憶、潜在的に眠っている多くの機能をも開発できます。

・神聖な叡智

すべてを生き出した普遍的な純粹な知識。宗教、神話、民話、慣習、遺跡、伝統行事等の中に秘められた形で残されている叡智を含む総合的な客観的な叡智、ノーシス。

・エゴの根絶



仮面舞踏会

何よりも自分は機械的人間であることを理解する必要がある。自分の内部に隠れている数々のエゴにあやつられるマリオネットでしかないということ。

日本語で言えば、「我」「自己中心」。このエゴは我々の進化を妨害し、正しい知識さえも歪曲して伝えます。エゴが我々に目隠しをします。エゴは我々の心理的毒素、有毒成分によって更に肥え太り、強大になっていきます。その成分が消費された性エネルギーです。欲望に負ければエゴに栄養が行き、欲望に打ち勝てば魂が強くなります。たゆまず自分のエゴを相手にがんばり続けるなら、いつかは魂が光で満たされるはずです。



## インテレクト

これは脳が持つ一つの機能、働きで、それによって我々は理性的に考えることができます。しかし、このインテレクトはロボットやコンピューターのデータバンク、頭脳のようなもので、記録されたものでしか働けません。それ以上の働き、創造的なことはできません。理性よりも許容量の狭い、限界あるものです。日本人はこのインテレクトを大変開発させたので、<sup>IQ</sup>知能指数が高いのです。しかし、このインテレクトは、いわゆる〇か×かという価値判断しかできず、すばらしい芸術作品を見ても魂で感じることをじゃましてしまいます。本当の芸術、シンボル（象徴）は、本当は我々の魂、意識にまで直接に、直観的に伝わってくるものなのです。今のインテレクトのみを重視する学校教育が、どれ程、真の人間教育から離れているか、気付かなければならないと思います。

## 理性

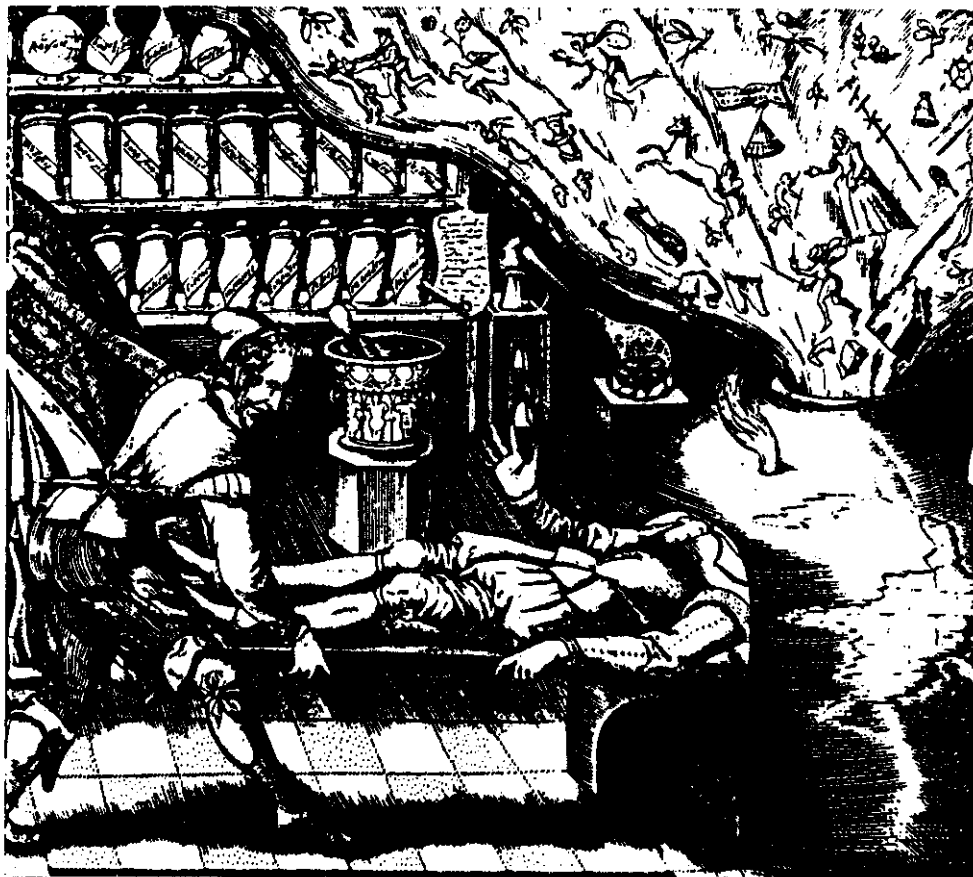
これはインテレクトの機能で人間だけが持つものです。脳が肉体の感器なのに対し、この理性は心理（サイキス）に属します。この理性を動かして、教えられたことや知ったこと、それらの情報を秩序立て、整理することができます。データバンク、情報や資料の倉庫であるインテレクトから、理性が情報を引き出して使うわけです。

もう一つ、インテレクトの機能に、ずるがしこさというものがあります。そして、だますということをし、うそをつきます。魂の“うそをつくな！”という声が聞こえずにうそをつくると、そのたびに魂と心理にズレが生じます。賢い人、魂の力の強い人はうそはつきません。ですから一番意識の目覚めている3~5才の子どもの言動に魂の表現が多く、うそも本来はつきません。

我々は生まれた時は3%位の意識の目覚めを持ち、最も多い時でも6~9%くらいです。我々が単なる情報、知識を集めるだけの段階から脱し、本当の知恵という神聖な段階に至るなら、本当に幸福になれるでしょう。知恵のある者、知性を我身に生きることのできる人が、本当の賢者と言えます。

## 知性と意識

肉体に脳、霊・心理（サイキス）に理性があるように、魂には知性と意識があります。これは兄弟のようなもので、純粋な魂、創造からの神聖なエネルギーです。知性はだれでもが持つものではありません。しかし、知性を持っている人は生まれた時から持っています。知性はその中に叡智を持っているので、知性のある人はだれに依存せずとも、自分で直観的に答や道を見つけてゆきます。我々は、本当の知性を自分で開発していかなければなりません。人間以外の生きものは、自然界の法則によって生きていて、この知性を開発していける存在ではありません。でも、人間には自由が与えられていて、自分の努力によって開発していきことができます。しかし、現実はどうでしょう。自由のはき違え、無知によって人間が、人類が最も動物以下に、非人間的に生きているのではないのでしょうか。そ



#### 幻想病を治療する医師

あやまった心理状態が日常生活の問題の原因である。エゴを除外するにしたがって、閉じこめられていた意識が解放され、決定的な変化が表われる。

れが世界的な、地球的な危機を招いています。本当の知性があれば、物質的にも精神的にもバランスをとって生きていけるはずで、そして意識が目覚めていればいるほど、正しい判断をしていくことができます。本当に純粋な叡智を、その目覚めによって求め、見つけていくことができるでしょうし、純粋な叡智によって意識が活動していきます。

魂という奥深い所にある知性と意識が表面に表われたもの、それが思考です。だれでも何かをするとき、必ずその何かのことを考えて、そして行動に移ります。だからこそ、正しい考え、正しい知識によって正しい行動を選んでいけるのです。悪い考えから正しい行動をとれるわけではありません。

この神聖なエネルギーである知性と意識を表現できないのは、我々の心理に問題があるからです。我々の内の魂という最も純粋なものを、心理的な汚れ、エゴなどの固いカラが閉じ込めているからです。

この知性と意識のエネルギー、成分はマインド（心、想念、頭）に表現されま

す。

**マインド(念、想念、心、頭)**

これは心、想念とか、思念、頭と言うとわかりやすいでしょうか。どこにでも  
ある1つの不可視のエネルギー、成分です。

以心伝心という言葉がありますが、これは人の心の、目に見えない想念、思い  
のエネルギーが相手に伝わるということを表わしていると思います。人を呪わば  
穴2つ、という言葉も、そのような見えない想念のエネルギーが呪った相手に届  
き、届き終わった後は自分に戻ってきて、自分を呪ったようにその呪いのエネル  
ギーが自分にふりかかるものだということを意味しています。

普通は心の中に浮かぶ思い、ずっと思い続けているいろいろの気持、想念、心  
理的な感情、考えなどはただそれだけで、実体の無いもののように思っているか  
もしれません。しかし、現実には見えないもの、見えないエネルギーが形あるも  
のの如く存在しています。超視覚のある人はそれを見えています。

不可視のエネルギーを濃密に濃縮させると形を成す。物質として形を創るとい  
うことを前にも書きました。マインド(念、想念)は形を創るためのエネルギー、  
成分です。だれかのことを考えたり、花や動物のことを思えば、そのように形を

創ります。ですからこの世界、宇宙は、  
創造主のマインド(想念、思念)を凝集  
させて創られ、我々人間も、ほかのすべ  
ての物質も同様です。このように我々が  
何かの思考、想念を持つ時、それは必ず  
形をとっているものです。だからこそ、  
前号の防御方法のところ、意識をもっ  
てとか、想念を働かせてやってくださ  
いと強調しました。このマインド(想念)  
の形を導いたのが念写です。カメラが、  
マインド(想念)の描き出した形を写し  
出したものです。また、このマインドの

念写したもの



三田光一 念写

(昭和7年12月25日)



エネルギーを使って病氣治療もできます。

最初に印象について書きましたが、このマインド（想念、心）は自分の内と外からのすべての印象をマインドに記録します。マインドはちょうど、休みなく動く自動の黒板が、テープレコーダーのようなものです。ですから自分が自覚して守るなり選択しなければ、良いものも善のあるものも、すべて受けとったままの印象を自分のマインドに焼きつけてしまいます。テレビの性的なコマーシャル、暴力的な場面、街頭のポルノ的なポスター、腐敗した権力社会…現在ほあまりに頹廢したものがあふれていて、本当に自分で印象を変換していくこと、自分で守ることを習う必要があります。

そして忘れてならないのは、マインド（想念、心、頭）は魂の影響下、支配下にあるのに、我々はマインドに縛られ、かりまわされ、自分自身をマインドの力に閉じ込めている、ということです。自分にやれるはずがないとか、自分も他人も変われるはずがないとか、自分の思い込みに捕われているうちは、前に踏み出すこと、自由になることができないでいます。カラは自分で破ろうと思わなければ、いつまでもカラの中です。

### 想像と空想

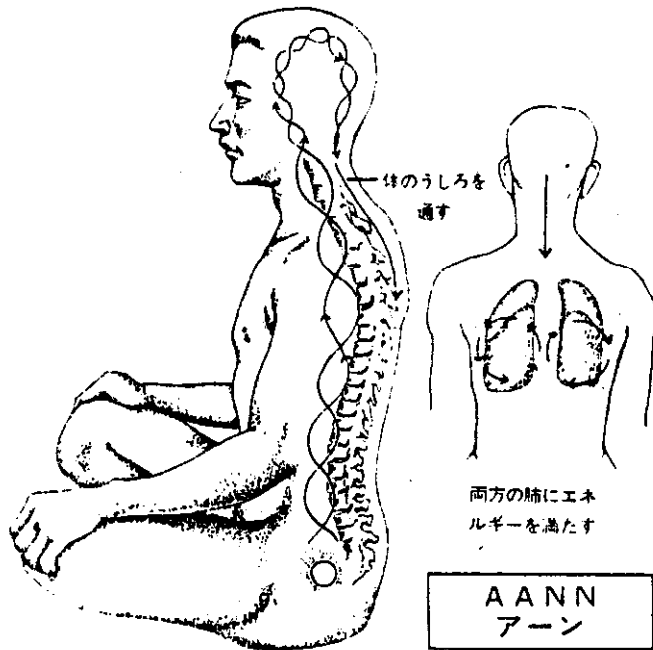
このマインド（想念、心）のエネルギー、またはメンタル（精神）のエネルギーを方向づけて形作ったもの、これが想像です。この想像は心理（サイキス）の動きであり、方向づけたものなので、ポジティブ（平、陽性）なものです。“心で想像する”とよく言いますが、マインド（心、念）という見えないエネルギーを寄せ集め、結晶させて想像するわけです。そして想像力によってイメージを造ります。しかし、空想はその人が持っている記憶の中でごみとしたもので、現実に見えないものを、我々に見せます。ですから本当に無いもの、有り得ない幻想に我々を引きずり落とし酔わせるものです。魂や意識をさらにくもらせてしまいます。想像力を養い、空想というものはなくしていくということが大切です。

### 記憶と意志

我々の霊の機能、動きに記憶と意志があります。

記憶は我々の脳の記憶を受け持つ部分にあるわけですが、本当に奥深い記憶は背骨にそってあります。転生（生まれ変わり）や前世のこと、創造の記憶などです。肺に記憶開発のチャクラがあります。ですから肺の血の循環を良くし、チャクラを開発することができます。先ほど、マントラのことを書きましたが、「アー（A）」という発音は肺に共鳴し、チャクラを開発させます。「アー」と言っ  
て背中の肺の所に手を当ててみてください。最初ほうまくできないかもしれませんが、やっているうちに肺に共鳴し、振動が手に伝わってくるはずで  
す。わかりやすいのが、「エー（E）」というマントラ。これは超聴覚を開発させるマントラ  
ですが、「エー」と言っ  
てのどの甲状腺の所をさわってみてください。ビリビリ、振動が伝わるはずで  
す。このように、音や音の波動、振動は必ず我々の体に共鳴

します。バイオリンやピアノなどの楽器のように、我々の体も一つの楽器と同じようなものです。ですから、耳が聞こえなくとも、音の振動を体で感じとっていくことができます。以前、ろう児達の施設に行った時、太鼓のたたき方を運ぶることによって、子ども達に起床や食事を知らせていました。太鼓の音の波動・振動を体で聞いていたのです。このように、我々の体は自分が発する音にも、外からの音にもそれなりの反応を帯びています。



「アー」とマントラを発音することによって肺に共鳴し、肺の血の循環を良くし記憶のチャクラを活動させます。それが記憶を促し、そして背骨にある記憶も活動が促され脳へ伝わります。このように、我々の潜在していた記憶もとり戻せるわけです。

意志も霊の機能の一つですが、これは説明はいらないでしょう。意志の無い所、何の行動、実践も起きません。ただ、エゴの意志ではなく、我々の本当の意志、魂と意識の意志を育てていかなければなりません。

#### 4. 共に光に向かうために

このように、我々は肉体ひとつを持っているのではなく、多くのものを持っています。そして、それぞれに機能があり、それぞれに必要な栄養、また重要性があります。そのようなことを医師も心理学者も教師も宗教家も教えてはくれません。けれども、自分がどういうものであるか知るところから、すべては始まります。そしてそれは、個人個人が精神的に上に向かっていく、内的に進化していくためにです。

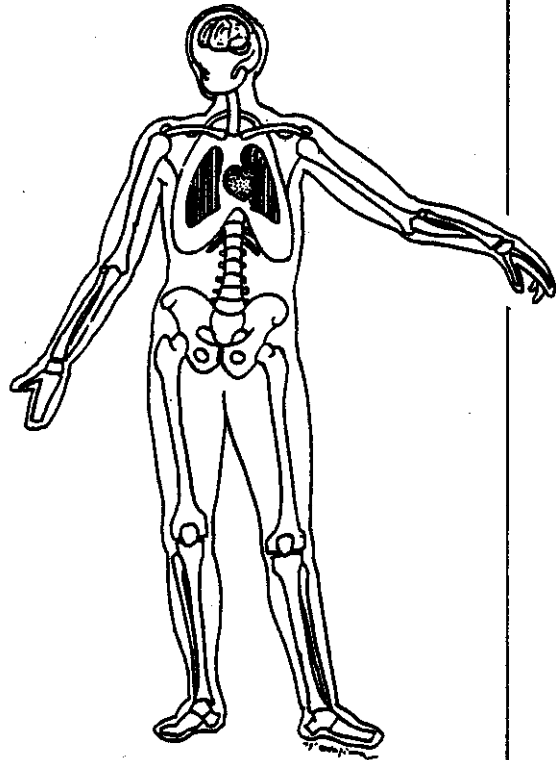
我々は肉体、霊、魂を持っています。肉体を保つ食物も自然のリズム、法則



にそうように洗練していくこと、限界のあるインテレクトや理性を超越するように、脳を開発することが大事です。脳を開発した一番高い所に知性があります。知性も+（ポジティブ）に方向づけ、本当の愛を育てなくては生命を破壊する方向で知性を働かせかねません。核兵器がそのいい例です。

霊的には我々の心理的毒素の問題を解決する必要があります。我々の心理的毒素は、実際にこの肉体の中に存在しています。それは乾燥水銀です。そして特に、肉体的な毒素は砒素酸質という成分です。そして、我々に大変害を及ぼしています。持てるものに早く気づき、それらを掘りおこしひとつに結び合わせる時、我々の持てる力を可能なかぎり生かして、目的に向かうことができるのではないのでしょうか。それは個人においても、夫婦においても、家族においても言えることではないのでしょうか。調和とバランスをとることが、どんなに大事なことかと思えます。

魂の栄養は、昇華された性エネルギー、性ホルモン、洗練された音楽・芸術、献身的行為、儀式、マントラ、スートラ（お経）などです。我々の最も純粋なエッセンス、魂が本当に光輝くためには、魂の光が本当に発揮できるように、また至高からの神聖なエネルギーが直接魂に届くように、内からと外からとの両方の働きかけをしなければなりません。そのためには内と外の間において妨害となっているカラ、エゴをなくすこと、その努力をすることです。そして忘れられがちな大事な点は、自分の内部を本当の愛の心で満たしたいのなら、愛の心を強くする、その愛を心やす前に、まず自分の中に巣くっている愛とは反対の心、それを無くすることが第一の自分の仕事だということです。何よりもまず、自分の中から憎悪、争い、競争、虚栄、ねたみ、不信、そういうエゴを消し去ることが先決です。世間的に、また組織の中で評価されやすいことをするのは、何もしないよりは大変ですが、本当にしなければならず、するのが困難なことは、この自分しかできない自分相手の心理的な仕事です。まっ黒いものの詰まった袋の中に、光を入れようとしても入りません。まっ黒いものを出して初めて、出した分ずつ光が入ってきます。そのように自分の内部も、生活のすみずみまでも変えていくことを願い、求めぬくなら、まっ黒いものへの入口が見つかると思います。まず自分を自分で観察



し、問うてみることから始めてみませんか？



●メンタル体の観色の放散。  
『活者の門出』の挿図より。一九七〇年。